

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

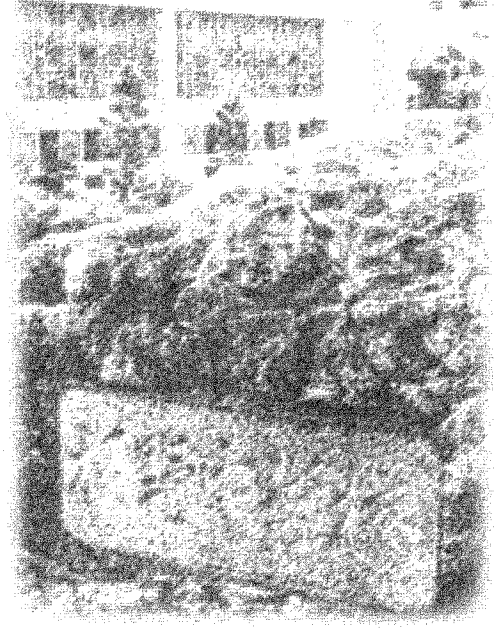
生涯の絆を育む板野中学校の人権・部落問題学習① ～信じ合い、何でも語り合える仲間として～

部落出身の苦悩と怒りをさらけ出した私の思いを、全体学習を通して受け止めてくれた中学2年の生徒たちは、1991年4月、中学3年となりました。この年、3年B組の担任として私は、学級開き、家庭訪問、参観授業へと部落問題を語り続けていきました。

その私の思いが、語り合いを通して、生徒一人ひとりの中に響き渡ったのが、1991年6月25日(火)に開催された徳島県板野郡同和教育研究大会での公開授業でした。

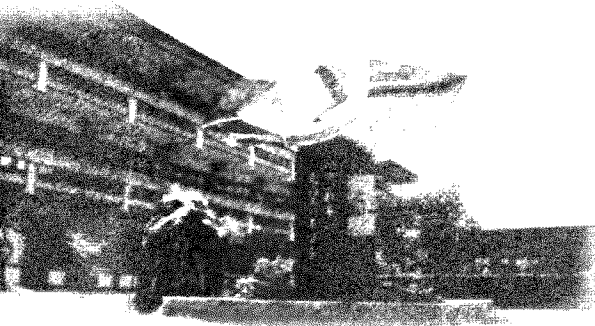
この時の語り合いが、私や生徒たちのその後の人生を大きく変えていきました。生徒たちの発言を中心に、その授業をこれから7回にわたって紹介していきます。

それは、部落出身として「ふるさと」の詩を書いた丸岡忠雄さんの生き方に学びながら、部落出身を隠し続けた丸岡忠雄さんが、なぜ変わっていったのかを追求する人権学習でした。この授業の後半、丸岡さんの生き方に思いを馳せる生徒たちに、私は次のように問いかけました。



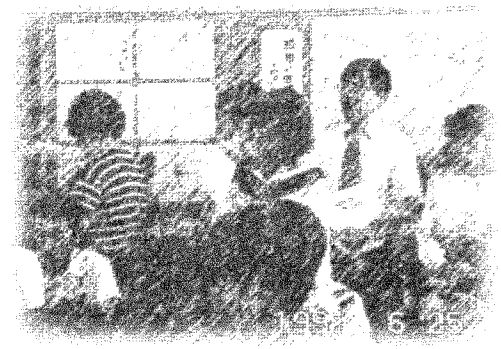
思いを伝えた問いかけ

山口県光市高州に生まれた丸岡忠雄さんは「ふるさと」の詩を著し、部落問題に寄せる思いを語るようになりました。丸岡さんは「差別をなくすための学習があったから、そして、信じ合い、何でも話し合える仲間がいたから、堂々と差別解消に向けて自分をぶつけていくことができた」と語られています。この「信じ合い、何でも話し合える仲間」、これは全体学習を積み上げてきたみんなにとっても、自分たちのこととして共感できると思います。この丸岡さんの思いに寄せてみんなが思うこと、感じることを語り合しましょう。



部落出身という立場を心に秘めてきたJ・Kの語り

私は、3年生になるまでは、自分が部落出身であることを絶対かくしていこうと思っていました。でも、いろいろな資料を勉強し、みんなの意見を聞いて、その言っていることを本当だと信じた時、この仲間だったら私の一番辛い思いを打ち明けられることができると思うようになってきました。今、私は2人の友だちに自分が部落出身だということを打ち明けています。まだ2人しか本当の友だちはいないけど、これからはもっとたくさんの本当の仲間を増やしていきたいです。



部落出身を打ち明けられた時の思いを伝えるY・Iの語り

私もJ・Kさんにそのことを打ち明けてもらったんだけど、自分の一番苦しい部分を打ち明けてくれたんだから、私も心を開いて頑張っていけないかと思うようになってきました。今、まだ2人にしか言えなかったかもしれないけど、もっとクラスの中の人たちがJ・Kさんの気持ちを受けとめて、みんな今の時間を大切にしてほしいと思います。



J・Kの語り、Y・Iの語りは、クラスメートの魂を揺さぶり、仲間の思いを引き出していきます

本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおランチ共同代表 森口 健司